マークベース　取扱説明書
Studio Pre

STUDIO PRE　OWNER'S MANUAL

1. はじめに

このたびは、マークベース　パオロ・コスタのシグネチャーモデルスタジオ・プリをお買上いただき、誠にありがとうございます。スタジオプリは、高い技術を持つ精鋭チームにより、イタリア・サンジョバンニ・ティアティーノの工場で製造されています。

私どもはアンプのテクノロジーまたデザインや形に重点をおくだけではなく、ベーシストにとって本当に必要とされるアンプの研究を進めてきました。その結果、高品質な音と魅力的なデザインを持ち、超軽量なアンプを開発することができたのです。スタジオ・プリ　アンプは、あなたの楽器のナチュラルなサウンドを再生し、あなたの音楽的アイディアを忠実にレコーディングに表現することができ、ライブではパワーアンプとキャビネットと共に強力な武器となります。

このアンプは、きわめて厳格なテストをパスしたものですので、クラブ、リハーサル会場やコンサートのステージはもちろんのこと、運搬時の過酷な環境にも耐えるうる性能を持っています。もちろん、適切に取り扱うことで、きわめて長い期間にわたって輝かしく、リッチでパワフルなトーンを楽しめることはいうまでもありません。
クリアでパワフルなこのプリアンプがあなたにインスパイアを与え、結果としてよりよい音楽がプレイされること。それこそが我々にとってのミッションの達成、といえるものなのです。それでは、あなたの新しい友・マーク・アコースティックをエンジョイしてください！

1. マルコ・デ・ヴァージリスからのメッセージ

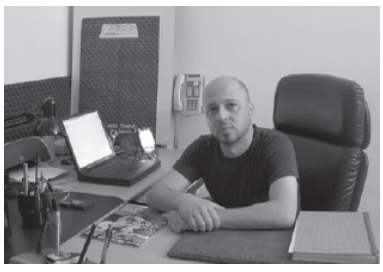
それは何年も前のこと、私がイタリアでマークベースの製品コンセプトについて想いをめぐらせていた頃から、私には一つのはっきりした目標があったのです。それは、世界中のプロフェッショナル・ベースプレイヤーの要求を満たす、トップ・クオリティのベースアンプを創り出さなければならない、ということでした。そしてまた私が思い描くアンプは、コンパクトかつ軽量で、パッシブ/アクティブタイプの多弦ベースが作り出す低域にも対応しうる製品でなければならないと考えていました。幸いなことに、小型のトランスやネオジウムスピーカーといった現代のテクノロジーの恩恵によって、私はついに目標を達成することができたのです。

マークベース・アンプの回路はベース本来のサウンドに色づけすることなく、楽器それぞれが持つ音質を忠実に再生できるよう、特別に設計されたものです。私はマークベース製品をより良いものにするため、世界中のさまざまなプロベースプレーヤーと密接な関係を持ちながら開発を続けてきました。

こうして今、世界中のベース・プレイヤーの要求に応える製品として、マークベースのアンプ、キャビネットのラインアップは確立されたと私は確信しています。

マークベースをご購入いただき誠にありがとうございます。そして、ご購入いただいたアンプが、あなたのサウンドをアップグレードさせる一助となることを願ってやみません。また、さまざまなシチュエーションでマークベースをご使用いただく中で、何かお気づきの点がありましたら、今後の開発の参考とさせていただきますので、ぜひとも私共にお伝えください。

ともかくは、音楽をエンジョイしてください！



マルコ・デ・ヴァージリス
マークベース：イタリー
www.markbass.it

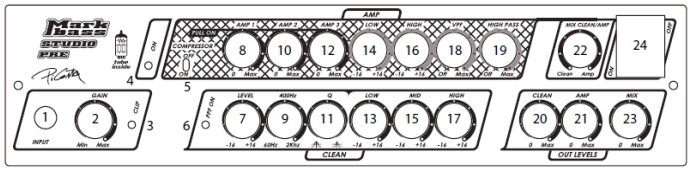
2. ＜注意！ ＞

＊感電を避けるため、アンプは水滴の落ちる場所や水の飛びはねる場所に近づけないでください。万が一本体または本体内部に水がかかった場合は、すみやかに電源を切り、修理をご依頼ください。
＊アンプを拭く時は、乾いたクロスなどで拭いてください。
＊喚起口をふさがないでください。
＊コードの接続は必ずギターから先に行い、アンプをその後にしてください。アンプから先に接続すると、スピーカーを破損する原因となります。
＊雷の天候の時、また長くアンプを使用しない場合は、電源プラグを外してください。
＊ヒーター等の熱源を本体に近づけないようにしてください。
＊アンプのボリュームを上げたままで楽器またはマイクを放置しないでください。
＊ネオン灯や蛍光灯の近くで使用すると、かすかにハム音が発生することがあります。楽器やアンプの位置を変えることによって、ハム音が消える場合がありますのでお試しください。

＜警告＞ヒューズ交換は、必ず電源プラグをコンセントから抜いた状態で行ってください。

3. 製品概要

マークベース Studio Pre は、ベース用のハイエンドかつデュアルチャンネルプリアンプです。



3.1 フロントパネル

INPUT

INPUT　ジャック(1)は、アンバランスドシグナルを 1/4”ケーブルから受けることができます。

Clean Channel

GAIN

GAIN(2)は、プリアンプの Clean セクションにどれくらいのシグナルを送り出すかをコントロールするものです。

もしプレイ中に青い CLIP ランプ(4)が点灯したら、歪みをなくすためにゲイン(2)を下げてください。

Pure Parametric フィルター

Pure Parametric Filter(7,9,11)は本格志向のパラメトリック EQ コントロールです。あなたのサウンドを正確に調整するため 60Hz から 2kHz 間の周波数をカットまたはブーストすることができます。

LEVEL(7)は、16 デシベルまで周波数をブーストまたはカットすることができます。

FREQ(9)は、センターの周波数域を調整します。

Q(11)は、0.5 から 8 までの値で周波数域の幅を調整します。

EQUALIZATION

マークベースアンプはお持ちのベースのナチュラル・サウンドを忠実に再生できるよう設計されています。

もしあなたが良い楽器をお持ちならば、イコライゼーションは最低限にとどめておくのがよいでしょう。ベースギターは聞こえないほどの超低域から、ツィーターで鳴らすような、またはほとんど聞こえないような超高域にわたる、極めて幅広い周波数域を再生する楽器なのです。

EQ のセッティングをいくつか試してみるとわかりますが、異なる周波数域それぞれが、ベースのトーンを作り出す上において欠くことのできない重要な役割をになっているのです。

LOW コントロールが扱う周波数域は、サウンドにパワー感をもたらす音の土台ともいうべき要素で、リスナー、そしてあなたの体をゆさぶり、時には人々が体を動かし・踊りださせてしまうような性質を持つものです。

MID コントロールは、演奏のピッチ感や音程感を調整するのに適したコントロールです。ベースのメロディ・ラインを明瞭に聞かせることができる、透明感豊かな周波数域ということができます。別言すれば、この周波数域が明瞭でないと、あなたが作り出すメロディックなベースサウンドが音楽のなかに埋没してしまう、ということができます。

HIGH の周波数域はアタックや音程感といったパーカッシブな特性を持つもので、これには指/ピックでの弾弦やフレットノイズ、スラ

ップや演奏時のビリつきなどが含まれています。

アンプのイコライゼーション・コントロールのうちのどれか 1 つが操作されているというだけで、あなたのベースが生み出す本来のサウンドは正確に反映されなくなってしまう、という言い方もできます。

スタジオプリは全ての周波数域にわたってクリアで明瞭なサウンドを生み出すことができるよう設計されていますので、イコライザーのノブが 12 時のフラットな位置にしておけば、あなたのベース本来のサウンドを再生することができるのです。

ただ、下記のような状況では、イコライゼーションを行う必要があります。

1. お持ちのベースのサウンドそのものが、特定の周波数域が弱いという特徴を持っている場合。
2. レコーディングでより良い音、また他の音とより良いブレンドを求める時。
2. 響きが悪く、特定の周波数が強調されてしまう部屋や会場での演奏。例えばステージなどで、低域が極端に鳴ってしまう場合や、ある音域だけが目立って大きく鳴ってしまう場合などがこれにあたります。この場合、問題のある周波数域を絞るなどして調整する必要があります。

イコライゼーションは繊細に行わなくてはなりません。セッティングの変更を始めるときは、まず EQ コントロールをすべてニュートラル（12 時）の位置にし、アンプから出力されるベースの音を聞きながら、じっくりと時間をかけて行ってください。いずれにせよ、あまりコントロールに大きな変更を加えない方が理想的です。

Pure Parametric Filter EQ に加えて、Studio Pre Clean セクションでは3つの EQ が搭載されています。

LOW(13)は、100Hz を中心とした周波数域を、最大 16db ブースト/カットすることができます。

MID(15)は、600Hz を中心とした周波数を最大 16db ブースト/カットすることができます。

HIGH(12)は，4Hz を中心とした周波数を最大 16db ブースト/カットすることができます。

Clean Out Level

Clean Out レベルを操作することにより Clean XLR OUT(27)からのシグナルをコントロールすることができます。

AMP Channel

コンプレッサー

COMPRESSOR(5)は、ベースギターに最適化されたシンプルかつプロフェッショナルなコンプレッサー・サーキットで、サウンドのダイナミクスを調整することができます。

AMP1,AMP2,AMP3

AMP チャンネルはパラレルで 2 つのチューブアンプとソリッドステートが連動し、好みのコンビネーションがつくり出せます。

AMP1(8)のシグナルは 2 つの ECC83S チューブを通りヘビーチューブディーストーションサウンドを作ります。

AMP2(10)のシグナルはソフトチューブディストーションサウンドのため1つの ECC83S チューブを通ります。

AMP3(12)のシグナルは FET を通りソリッドステートディストーションを作ります。

それぞれのアンプチャンネルを ON にしたい時は、ノブを引き出します。そしてお好みにより各チャンネルのレベルを調節します。アンプチャンネルを OFF にするときは、ノブを押し OFF にします。

EQUALZATION

STUDIO PRE AMP チャンネルは2つの EQ が搭載されています。LOW (14)は 100Hz を中心としてセットされています。このボリュームで 100Hz を中心とした周波数域を、最大 16dB ブースト/カットすることができます。HIGH(16)はこのボリュームで 4kHz を中心とした周波数域を、最大 16dB ブースト/カットすることができます。

VPF FILTER

VPF

VPF フィルター(18)（バリアブル・プリシェープ・フィルター）は、低域（35Hz 周辺）と高域（10kHz 周辺）をブーストし、中域（380Hz 周辺）をカットします。ロックには最適なパワー感が得られるフィルターであり、またスラップベース・プレイヤーの好みにも合うフィルターといえます。高いヴォリューム設定の状態で、VPF を上げると低周波数の上昇が原因でアウトプットが制限されます。

HIGH PASS FILTER

HIGH(19)は低周波数をカットし高域のみを出力します。この機能はディストーションを使用している時にクリアーな音をだすことができます。なぜならディストーションベースはとても激しい音を出すことができるからです。このノブを上げるほど低域がより広い範囲でカットされます。

AMP OUT LEVEL

AMP(21)は、AMP XLR OUT(26)から出力されるヴォリュームを調節します。

MIX

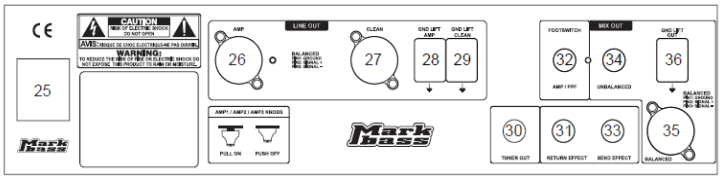
MIX CLEAN/AMP

Clean/Amp(20,21)は MIX アウトプット(34,35)に出力する Clean チャンネルと AMP チャンネルのバランスを調節します。

MIX OUT LEVEL

MIX OUT(23)は MIX XLR OUT(35)と MIX OUT(34)から出力されるレベルを調節します。

3.2 スタジオプリ リアパネル



アンプチャンネルアウト

バランスド XLR(26)は、アンプチャンネルで作った音を、ダイレクトボックス無しで、PA 機器（レコーディング、ライブ）やサウンドカードに接続することができます。

クリーンチャンネルアウト

バランスド XLR(27)は、クリーンチャンネルで作成した音を、ダイレクトボックス無しで、PA 機器（レコーディング、ライブ）やサウンドカードに接続することができます。XLR ケーブルを使用しサウンドボードや MIX 機器などに接続することができます。必要に応じてクリーンアウト・レベル(20)を調節してください。

グランドリフト アンプ

AMP LINE OUT(26)を使用するとハムノイズが発生することがあります。こういった状態は、電源のグラウンド（接地）問題によって生じます。GROUND LIFT AMP(28)スイッチを反転することによりこのハムノイズを消すことができます。

グランドリフト クリーン

CLEAN LINE OUT(21)を使用するとハムノイズが発生することがあります。こういった状態は、電源のグランド問題によって生じます。GROUND LIFT CLEAN(29)スイッチを反転することによりこのハムノイズを消すことができます。

チューナーアウト

TUNER OUT(30)は、チューナー用ラインアウトで、ペダルを介してチューニングするよりも良い状態で音声信号をチューナーに送ることができます。

エフェクトセンド アンド リターン

エフェクトペダルかラックギアを使用するのであれば、リアパネルの SEND EFFECT(33)と RETURN EFFECT(31)をルートさせ利用することができます。エフェクトループは CLEAN チャンネルとパラレルで接続されているのでプレイ中にエフェクトの電池が切れたりしてもメインの音を失うことなく演奏が続けられます。

フットスイッチ

Studio Pre のオプション品であるフットスイッチには、オン／オフ・タイプの 2 つのスイッチがあります。1 つは、AMP チャンネルをバイパスし、もう 1 つのスイッチは CLEAN チャンネルのピュアパラメトリックフィルターのオン/オフを切り替えます。スイッチをオンにするとフロントパネル上のブルーの LED (4) (6)が点灯します。

ミックスラインアウト

バランスド XLR(35)アウトプットは、CLEAN と AMP チャンネルのブレンドされた音を PA 機器などにダイレクトボックス無しで送ることができます。

アンバランスド 1/4”ジャック(34)のアウトプットでは、プリアンプされたサウンドを、アンプなどのアンバランス入力のある機器に出力します。

グランドリフトアウト

MIX LINE OUT(26)を使用すると、ハムノイズが発生する場合があります。

こういった状態は、電源のグランド問題によって生じます。GROUND LIFT AMP(36)スイッチを反転することによりこのハムノイズを消すことができます。

3.3 STUDIO PRE 詳細

INPUT impedance: 500 Kohms, max. voltage: 10Vpp

CLEAN CHANNEL

GAIN section TUBE; 1xECC83S
Gain: 50dB

SEND/RETURN Section return impedance: 50 Kohms
Send output impedance: 1Kohms
Effect loop type:parallel

Pure Parametric Filter section frequency range: 60Hz-2KHz
Level: +/- 16dB
Q:0.5 - 8
Bypass option:foot-switch-controlled

Equalizer section filter frequency: 100Hz(Low), 800Hz (Mid), 4KHz(High)
Level: +/-16dB

AMP CHANNELS

AMP1 TUBE: 2x ECC83S

AMP2 TUBE: 1x ECC83S

AMP3 SOLID STATE

COMPRESSOR switch on front panel

Equalizer section

filter center frequency: 100Hz(Low), 4KHz(High)
level: +/-16dB

VPF(Variable Pre-shape Filter)

Center frequency 380Hz(cut)

High Pass Filter frequency range: 20Hz-1KHz
Level: -3dB

OUTPUTS

AMP LINE OUT balanced XLR, max. voltage 10Vpp

CLEAN LINE OUT balanced XLR, max. voltage 10Vpp

MIX LINE OUT balanced XLR, max voltage 10Vpp
Unbalanced 1/4"jack, max voltage 2.5Vpp

TUNER OUT Unbalanced 1/4"jack, max voltage 2.5Vpp

FOOTSWITCH Tube channel(on/off) / Pure Parametric Filter(on/off)

OTHER

HEIGHT 2 rack units (3.36 in./86mm)

WIDTH 14.21 in. / 36.8cm(19in./48.3cm with rack ears)

DEPTH 11.89 in. / 30.2cm

WEIGHT 5.85 lbs/ 2.7kg

POWER CONSUMPTION 60W

POWER REQUIREMENT 100V/120V; 230V; 240V 50/60 Hz (Voltage in factory preset according to the region of sale)

FUSE

EUROPE 3.15A 250V T 5x20

AUSTRALIA/UK 3.15A 250V T 5x20

USA/CANADA 3.15A 250V T 5x20

JAPAN 3.15A 250V T 5x20

Markbass 日本総代理店　パール楽器製造株式会社
〒276-0034　千葉県八千代市八千代台西 10-2-1
本社 047(484)9111　　営業部 047(450)1113